

## 深井眞樹先生を 偲んで

副会長 大田善秋  
(群馬県)



2015年8月27日の夜、深井先生の突然の訃報を聞き、自分の耳を疑いました。8月24日に携帯で連絡したときは、「9月の岡山のインプラント学会は行くから」と元気に話されていた矢先の出来事でした。その日はただただ茫然とし、仕事が手につきませんでした。

深井先生が生前にお墓を建てられていた、港区高輪の泉岳寺(赤穂浪士の墓で有名)で執り行われた29日の通夜、翌日の密葬儀に参列させていただきましたが、にこやかにほほ笑む深井先生の遺影を拝見してまた涙が溢れました。

私事で恐縮ですが、1983年に大学を卒業してすぐに深井先生の診療室に就職させていただきました。緊張して面接に行った日のことです。先生は優しい口調で「君は、大学時代に運動部に入っていた?」「はい、入っていました。」「お酒は飲める?」「はい飲めます。」「そう、採用」と言われ唖然としました。さっそくその日の夜、六本木に飲み連れて行って頂いたことも鮮明に思い出されます。深井先生の誰に対しても寛容で、おおらかな態度は生涯変わることがありませんでした。

深井先生のところには8年間勤務させていただきました。多くのことを学ばせていただきました。特にインプラントとの出会いは私の歯科人生を変える大きな出来事でした。当時は、まだインプラントに対して風当たりが強い時代に深井先生は、「大田君、これからはインプラントの時代が必ずや来る。しっかり勉強するようにと。」1985年に日本インプラント臨床研究会に入会させていただきました。多くのインプラントバカの仲間と知り合えたことが、今ではかけがえのない大きな財産になっています。また、多くの国内外の学会にご一緒させていただき、イン

プラントだけでなく、多くの臨床を学ぶことができました。

深井先生には、勉強だけでなく人生の楽しみ方を多く学びました。

「大田君、勉強をするときは真剣にやりなさい、しかし遊んでいるとき飲んでいるときは、勉強の話はするな。」

とよく言っていましたよね。

特に共通の趣味であったjazzでは、いろいろな所へ一緒に聴きにいきました。山中湖のマウントフジ・ジャズフェス、斑尾高原のニューポート・ジャズ・フェスなど、特に印象に残っているのが、1983年に池袋の要町にあったジャズクラブ・デルブで聴いたアート・ブレイキー&ジャズメッセンジャーズです。深井先生はとても感銘をうけて、「俺もドラムやりてーな」としきりに言っていたことを思い出します。後日、それを実現したのにはびっくりしました。

よく相浦先生が言っていました。深井ちゃんは多羅尾伴内みたいで不思議な人だったよなど。あるときは歯科医師、あるときは経営者、ヨットマン、海上自衛隊、ジャズドラマーなどなど、どれも一流にスマートにこなす人でした。まだまだやり残したことは、沢山あり心残りだったことでしょう。

我々は、深井先生の遺志を汚すことなく、受け継いでいきたいと思います。先生のごことは一生忘れることがないでしょう。

親愛なる念をこめて深井ちゃんありがとう。

新婦元 穂和院眞道樹榮居士霊位

合掌



深井眞樹名誉会長 追悼



深井眞樹名誉会長 追悼

